

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4793600034		
法人名	社会福祉法伸芽福祉会		
事業所名	グループホームマイフレンズ		
所在地	沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武202番地2		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関や他事業所との連携を密にとり、受診の際は出来るだけ同行しており、訪利用者様に応じて利用している。地域資源を活用し、ボランティアの理容をお願いしている。保育園児の訪問交流がる。入所前の体験宿泊の際は希望があれば、家族様にも泊まって頂いています。大きなイベントの場合は家族様もご招待し交流を深めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=4793600034-004&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成29年 2月28日		

法人は保育園と本事業所を運営している。本事業所は住宅地の丘に位置し一戸建平屋で、開設2年10か月を経過している。調査時の入居者は6名で内3名は管轄地域外の特例入居者となっている。各居室の整理ダンスは固定し地震対策を施しており、年2回、夜間を想定した避難訓練や消防訓練が実施され、安全対策に留意している。病院受診は職員が家族と同行し、直接医師に症状などの情報提供しており、医療機関との連携が図られている。介護計画は、利用者・家族の意向を反映し実施している。視覚や聴覚、言語などに障害がある利用者には、それぞれに合ったイラストや写真などで意志疎通を図る工夫が行われている。希望があれば家族の宿泊にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度の外部評価時に助言を頂き、ホーム独自の理念を作りユニット内に掲示し、それぞれが心がけて関りを持っている。	事業所独自の理念を、職員間で検討し「いつも笑顔で、いつも寄り添って、共に手を取り合って」と掲げ、介護理念も同時に作成している。内容が運営やケアサービスを提供する上で、拠り所としている原点について、言語化や文書化しているかを検討中としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入を申し入れたが返事は頂けなかった。広報や地域の方からの誘いに出向くようにしている。	年1回の町敬老会参加や社会福祉協議会の展示会、同法人系列の保育園児の訪問交流が行われている。しかし事業所としては、近隣地域とのつきあいは希薄であり、日常的な交流について模索している。	グループホームの専門性(特性)などを活かし、地域住民との日常的な交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加や近隣の高齢者への関わりが多くなり、実践で身に着けたことを生かすように心がけている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の会議を行い、意見交換や助言を頂いている。推進委員様からの意見を元に活動し次回の会議で報告を行っている。	運営推進会議は、利用者・町職員・社協・民生委員・町議員等が委員となり、年6回定期的に開催している。会議内容は利用者の状況報告が主となっている。議事録は玄関先に綴りで公表している。会議に家族代表の出席が得られていない。	家族は会議の構成員として義務付けられているので、家族の代表が出席できる工夫、及び議事録の整備も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進委員でもある役場、社協と連絡を取り合いながら、利用者様へのサービスの向上、地域への貢献を心がけている。	運営推進会議に町担当者や包括支援センター職員が参加し、情報交換が行われている。支援困難利用者への対応等について、包括支援センター職員等へ意見を求め情報交換がされており、日頃から協力関係が築かれている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	知識としては認識しているものの、利用者様一人ひとりへの対応の仕方をもっと学ばなければいけないと思う。職員の手が足りない時は一時的にリビングのドアの施錠を行う時もある。	身体拘束をしないケアに努めているが、転倒防止のため、やむを得ず一連の手順を踏んだ上で、利用者1名が就寝時等、ベッド上で過ごす際に4点柵を実施している。身体拘束・虐待防止について、職員研修の必要性を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が少なく研修へ行く人が限られているが、持ち帰り職員へ伝え意見交換を行っている。日ごろ様子を気にかけて注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、わからないことは直接後見人様に話を伺うようにしている。また研修があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は行っているが、入居後に再確認が必要な場面もみられ、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会が多いので、その都度利用者様の情報を伝えている。また家族様の言葉や表情から要望を汲み取れるよう努めている。	利用者からの意見や要望は日頃の会話で、家族からは面会時に聴いている。毎月の利用料金は、状況報告や交流を兼ね現金支払いにしている。家族から「入居者を募るには、パンフレットを公民館等に配布してはどうか」との提案があり、公民館に配布している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や連絡帳、申し送り、日々の会話の中で提案を聞くように努めている。	管理者は、職員からの意見や提案を何時でも聴く体制を整えている。職員体制が不備な現状であるが、管理者は、職員の意向に臨機応変に対応し、勤務や休暇取得の調整が行われている。希望する職員には、事業所外の研修派遣も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の現状把握に努め働きやすい職場を目指しており、4月には1万円数千円の給料アップを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手がある時は研修に参加しているが、不足している時が多くなかなか参加できない。ミーティングの際にテーマを決め勉強会を行っているが、回数は多くはない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修や社協の研修に参加し、他職種からの情報をもらいながらサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には出来る限り、本人様や家族様との面会を重ねるようにし、安心して入所して頂けるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際、家族様からの話や様子をしっかりと伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を受け止め要望を出来る限り、反映出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合う気持ちで、日々一緒に過ごす事がいいと思い接しているが、慣れ合いにならない様に注意していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態変化を面会時や電話で伝えて、家族様の様子にも配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力により自宅でのお泊りや外出、外食などや職員と見慣れた地域を散歩やドライブし、安心して過ごせるように、また居心地のいい施設作りを行い面会しやすいよう努めている。	これまで製材業を営んでいた利用者に、森林や木材、建築などの写真やイラストで懐古したり、家族の模合いなどの行事には参加を促すなど、これまでの生活の継続支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関りが持てるよう職員が仲立ちし話題を提供したり、歌をうたったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会を行い、転所先や病院へ情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、本人様の状態を確認し意向の把握に努めている。	一人ひとりの思いなどは、日頃の会話の中で把握している。具体的には、視力障害のある方には、配膳された食事のメニューや、屋外の天気の説明、草花の様子など付き添って説明しながら意向把握に努めている。聴力・言語障害のある方には、日常生活の様子イラスト集を作成し、指さし説明をする工夫が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報や、今まで関りのある機関から情報提供をしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を個人日誌や申し送りと直接関わりながら把握している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様からの意向が中心となっており、職員からの積極的な意見はあまりない。	基本情報の要点を朱書し、解りやすい工夫をしている。担当者会議で課題を抽出し、介護計画には「寂しくならないよう、好きなCDをかける」、静かに過ごしたい利用者は「一人になれる時間の確保」等、家族等の意向が反映されている。担当職員のケアチェック表を基に、毎月のモニタリングも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は行ってはいるが、記入漏れが多く、その際は直接、職員から聞くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	役場や医療機関のアドバイスを頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に理髪のボランティアの方をお願いをしている。町の敬老会への参加も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診動向を行っており、同行できない時は文書や電話で情報を提供している。訪問診療の方もいる。	利用者はこれまでのかかりつけ医を継続している。受診は職員が対応し、症状を説明する事で、医療機関との連携に努めている。利用者個人別の医療情報がファイル化されており、受診時には持参し、医師に情報提供し共有している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の方の変化がある時は、連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、基本情報の他、日々の様子、注意点などをまとめ情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の中で、説明はおこなっている。	重度化や終末期に向けた支援については、入居開始時に事業所の現状の方針を説明している。終末期や重度化について、指針の作成を含め今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急ファイルを作成しており、急変時はそれを見て対応できるよう担っている。また救命法の勉強会も時々設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。	夜間想定消防訓練を2回実施し、内1回は消防署の立ち合いの下で行っている。自主訓練で地震の避難訓練も行われている。隣接する社協には訓練の通知をしている。非常用食糧などの備蓄がある。台風時には職員が2、3人泊まり非常時の対応をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	使用後のパット類は周囲に気づかれないよう新聞紙で包み捨てている。排泄への声掛けの際、周囲に聞こえてしまうので、注意が必要を感じている。	利用者ができることは本人にやってもらうようにし、役割や生きがいを持てるよう支援している。寝起きの髪の毛のブラシかけやメイクを手伝うなど、利用者に寄り添った対応を心掛けている。管理者は、利用者の尊重やプライバシー確保について、職員の研修を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行うときは本人様に確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人様の気分に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室から出てくるときは、ブラシで髪を整えたり、入浴後、髪をきれいに整えている。またメイクも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の気分にもよるが食器洗いや洗濯物干しを一緒に行っている。	食事は事業所で調理しているが、副食の材料は業者に配達してもらっている。利用者は、食器洗いなどに参加することもある。職員は弁当を持参し、利用者と一緒に摂っている。ピアノやオルゴールのBGMを流し、食事を楽しくするよう工夫している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックは行っており、足りない時は職員間で声掛け合い一日の水分量を調整している。自力摂取がとれない方へは介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。夜は義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排便コントロールを行っている。乳製品や水分調整、下剤調整を医師の指示のもと行っている。排泄は定期的に声掛けをしている。	日中の排泄は、定期的な声かけや利用者の表情などでトイレへ案内している。3か所のトイレはウォシュレットが設置されており、流水や水音を聞かせるなどして排泄を促すとともに、清潔維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示で下剤の調整や水分量、乳製品で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に行ってはいるものの2人介助が必要な方は、職員が不足している日には対応できない。希望に添えていない。	週2回の個浴を基本とし、洗えるカ所は利用者自身で行なえるよう促している。介護計画で「前部は自分で洗うこと」を明記している利用者や同性介助を希望する利用者の場合も介護計画に記載して対応している。介助を相性の良い職員を指名する利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムに合わせて対応している。入居間もない方は、不安にならないよう、リビングへ移動し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	緊急ファイルに薬情報を入れている。定期薬に追加や変化があった際は情報を共有し状況の観察、医師への連絡を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやもやしのひげ取りなどを手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分、天候に合わせて裏の遊歩道へ散歩したり、保育園までドライブしている。家族様の協力があり外出している。	日常的に利用者の気分や体調に応じて、事業所周辺を散歩している。気分転換にドライブも兼ねて、法人の保育園に食材を受け取りに出かける利用者もいる。知人宅の庭桜見物にも出かけている。家族と定期的に外出する利用者は、介護計画に反映している。外出困難な利用者は、ベランダでの外気浴が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様ご全員、お金の管理が難しく、家族様からお金をお預かりし必要なものを購入する場合がある。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月10日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気持ちが落ち着かない時は家族様へ連絡し、話をして頂くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったものを飾るようにしている。その時の状況に応じた音楽をかけている。	居間兼食堂の西陽よけに、パーテーションや夏はゴーヤカーテンで工夫している。食卓は波形の介護用テーブルで、車椅子でも安定した姿勢が保てるようにしている。一人でくつろげるソファを配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりできるようソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が写真をパネルにさせていただいている。のれんを使用し、安全を確保しながらプライバシーを確保している。	各居室は鏡付きの洗面台が設置され、家具は地震対策で固定されている。昼間は各居室開放しているが、それぞれ好みの長暖簾を掛けており、プライバシー確保に努めている。利用者の様子を見て貰うため、希望があれば家族の宿泊にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時に危険が無いよう物の配置を考え、不要なものは置かないようにしている。独歩の方はトイレ前にトイレと表示し、貼り付け、居室前にはお名前を貼り、記名された衣類は職員が分別し、利用者様にたたくて頂いている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームマイフレンズ

作成日 : 平成 29 年 4 月 16 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の検討（介護するうえでの職員の姿ではなく、振り返りができる理念）	職員が介護を行い何か問題点があったら、理念を元に振り替えりができるように、全員で理念をの見直しを行う。	評価後の直近の職員会議で話し合い、介護理念の周知を図り、毎回職員会議の初めに理念唱和を行っている。	0. 2ヶ月
2	9	重要事項説明書内容検討(同意書及び利用者の権利)	情報開示の同意書及び利用者の権利を重要事項説明書の内容に盛り込む。	法人内で重要事項の同意書及び利用者の権利の内容を検討し、修正を行っていく。	1ヶ月
3		地域住民との日常的な交流	地域住民の意見を取り入れ地域に馴染まれるグループホームになっていく。	地域の民生委員にグループホームの運営推進委員を依頼し、地域の意見を拝聴させて頂きながらグループホームが地域で担える役割を探していく。	2ヶ月
4		運営推進会議への利用者の積極的な参加	運営推進会議に利用者家族に積極的に参加してもらう。	日程調整のための事前アンケート等を配布し、利用者家族の参加がしやすい環境を整備していく。	1ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。